

7. 経済協力

(1) 各国の援助

各ドナー及び国際機関からの援助額は、1992年に本格再開された当時は、2.5億ドルだったが、近年は、10億ドル前後で推移しており、その内約15～20%が我が国の援助である。我が国以外の主要ドナーは、中、ADB、米、豪、EU、世銀、国連などである。2010年6月の第三回カンボジア開発協力フォーラム（CDCF会合）においては、支援国から3年間（2010～2012年）で約28.06億ドルの供与が表明された。援助額に占める贈与割合は約7割であり、借款は約3割である。最近の傾向としては、農業・農村開発や運輸・電力・水・衛生等の社会経済基盤整備が中心となっている。保健、教育等の社会開発セクターへの支援は、全体の2割を占めており、引き続き高い配分となっている。

(2) 国家開発計画

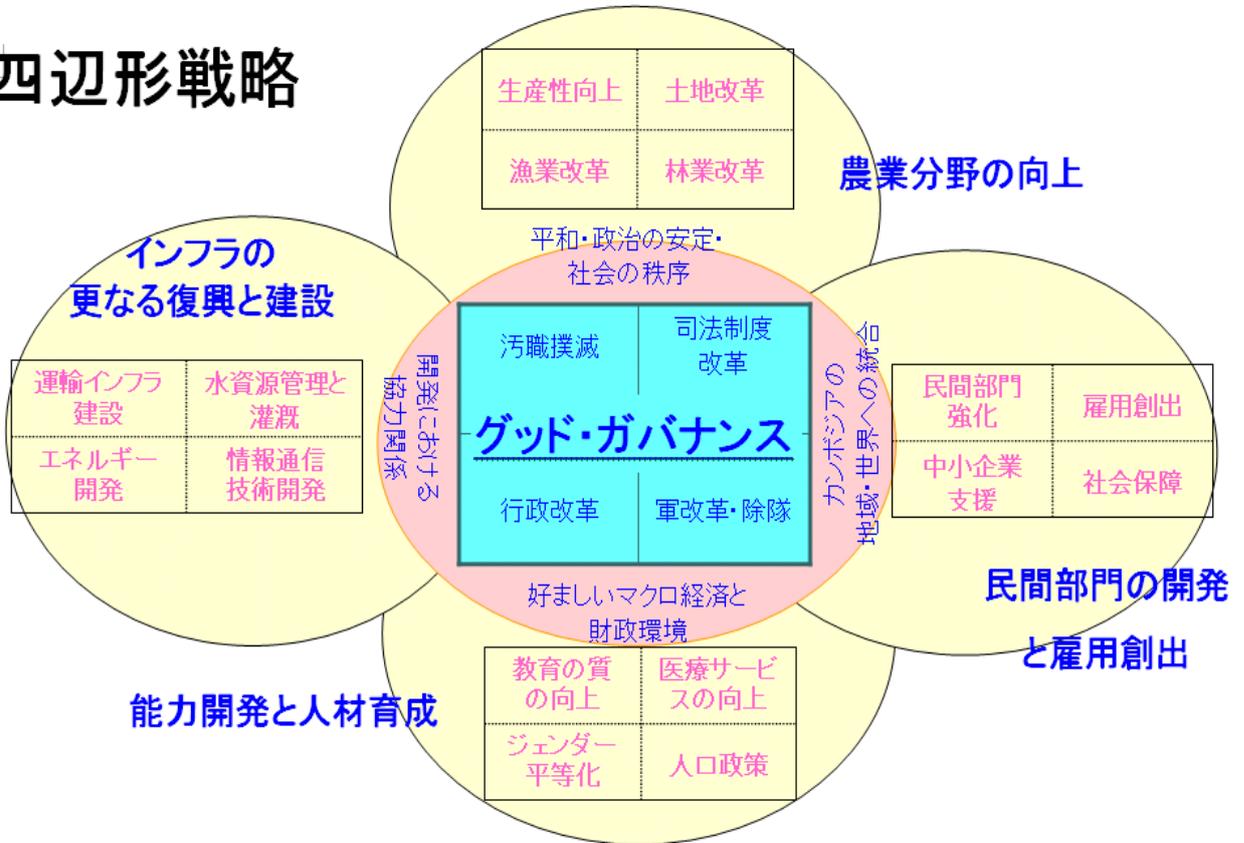
カンボジア政府は、1992年から本格化した復興支援を踏まえ、2002年に第二次社会経済開発計画を策定、これを更に具体的な計画にすべく、2003年に国家貧困削減戦略が策定された。

2004年には、フン・セン首相は、今後の国家開発戦略として、四辺形戦略を発表し、現在この戦略がカンボジアの開発の中核となっている（模式図は次々頁参照）。四辺形戦略は、包括的な国家開発の枠組みとして策定されたものであり、前提条件としてのガバナンスを最優先課題として核に据えた戦略となっており、汚職対策、司法改革、行政改革、動員解除の4つの課題を掲げ、同時に目的達成のために、農業、民間セクター、インフラ整備、人的資源開発の4つの分野の開発に重点をおく戦略となっている。また、2008年に行われた第4次政府閣議において、第二次「四辺形戦略」が発表された（模式図には変更点なし）。

2006年には、2010年までの国家戦略開発計画が閣議承認されたが、これは四辺形戦略を実現するための計画としてグッドガバナンスを最重要課題として策定されたものである。2008年第4期王国政府により、2013年までの同計画の延長が発表された。

我が国の協力は、こうしたカンボジア政府の策定した国家開発戦略計画を強力にバックアップする形で実施されている。

四辺形戦略



(参考) フン・セン首相が特に重視している優先分野：(1) 農業 (特に水利)、(2) 運輸と交通 (特に港、道路、橋)、(3) 電力、(4) 人材育成に加え、(5) 輸出加工業、(6) 観光、(7) 石油・鉱物資源